

平成22年度第1回山梨県後期高齢者医療懇話会議事録

日 時	平成22年9月16日(木)午後2時
場 所	山梨県自治会館 2階 会議室3
出席者	被保険者を代表する委員 水上秀克(老人クラブ)・一ノ瀬久則(老人クラブ) 米山富子(老人クラブ) 医療関係団体を代表する委員 島田和哉(医師会)・花形哲夫(歯科医師会) 学識経験者その他の有識者を代表する委員 中澤卓夫(県福祉保健部)・戸田 知(社会福祉協議会) 医療保険者等を代表する委員 吉田幹哉(健康保険協会)・赤岩三郎(健康保険組合連合会) 保坂和則(国保連合会) 広域連合 小野事務局長・小川事務局次長・武井業務課長 清水総務担当リーダー・槌屋総務担当
欠席者	被保険者を代表する委員 谷戸武雄(老人クラブ)・加賀美千鶴子(老人クラブ)
傍聴人	2名
報道関係者	なし
懇話事項	1 「高齢者のための新たな医療制度に係る中間とりまとめについて」事務局より説明 2 その他 その後、各委員より下記のとおり意見がでた。

記

- 医療制度が後期高齢者の保険でなく改善して行こうというのは良い方向だと思う。制度が代わる度に複雑になる。制度を変えたらなるべく変えないように、これを最後にするようつもりでやって頂きたい。
- 少子高齢化が進んで行く。上がる医療費を誰がどう負担するのか、将来的に制度運営して行けるのか、若い世代が負担していけるかについて皆で考える必要がある。
- 分かり易くシンプルな制度にしようということが見える半面、財源については何ら明らかにされていないという点において、財源の問題を気にしている。財源問題が明らかにならないと良いも悪いも言えない。負担について早急に出して貰いたい。
- 国保の納付率は低くなっており、皆保険の根本が崩れかかっている気がする。後期高齢者医療の被保険者は多くが国保へ戻って行くが、納付率の問題は解決しておかなければならないと思う。
- 国全体が医療費を下げて行かないといけない。保健事業についても強くアピールする必

要があると思う。

- 特定健診に歯周病疾患健診が入っていないが、非常に生活習慣病に関係している。周知が伸び悩んでいる状況にあるので、皆さんにもアピールをして頂きたいと思う。
- 健康に対する意識の向上や健康作りに取り組んで欲しいと考えている。
- 制度度がかわると病院を始めとし、いろいろな組織で電算費用が思いのほかかかる。制度変更についてはその辺にも考慮頂きたい。
- 後期高齢者医療制度においての、75歳以上の高齢者の自立や人格は、以前の老健制度よりも遥かに個々の中に取り入れられていたと思う。高齢者の自立や人格が、制度廃止により扶養される身に戻った時に、どれほど確保されるものなのか心配である。